

緊急事態宣言延長！ ますます厳しさ増すイベント開催

9月12日が期限とされている緊急事態宣言は、東京、神奈川、千葉、埼玉の首都圏4都県などで2週間程度延長される可能性が強くなりました。直近1週間の10万人当たり新規感染者数(9/2現在)は、宣言が適用されている全21都道府県で、最も深刻なステージ4(爆発的感染拡大、25人以上)で、東京都は158人、愛知県163人、大阪府196人など大都市で基準を上回っています。

このような厳しい状況下、各地で全日本合唱コンクールの地区大会が開かれています。無観客だったり生演奏と録音を併用しての審査だったり、かつてない厳しい運営を強いられています。個々の合唱団に目を移すと、コロナ禍の影響が明確に表れています。規模の大きな団では会場の手配がつかず再開のめどが立ちませんし、高齢者を中心に感染を恐れて休団する人が続出し、さらには歌う気力まで奪われ退団に至るケースも散見されます。これは合唱界にとってまさに緊急事態です。ふたたび合唱文化が戻ってくることを祈るのみです。

一方、感染防止策より営利を優先させた野外イベント「NAMIMONOGATARI2021」などに批判が広がっています。感染防止策を守りながら慎重に事業活動が続ける音楽業界を潰しかねない暴挙です。

音楽・合唱関係者が模索しながら、慎重に対策を練り薄氷を踏む思いで活動していることに水を差すものです。とうてい許されるものではありません。主催者の猛省を求めます。

彩の国男声コーラスフェスティバル中止！

埼玉では、10月3日に予定していた彩の国男声コーラスフェスティバル2021が中止に追い込まれました。昨年に引き続き2回連続の中止です。当初予定していた会場と日程を変更し、新たに組み立て直して臨んだイベントでした。

例年は演奏会と懇親会を同時に行っていますが、今年は「飲食を伴わない」ことが求められているので懇親会を断念し、演奏中心のプログラムとしました。まさか懇親会で「黙食」では異様すぎますから…。その代わりに「お楽しみステージ」と題して参加17団体をグループ分けし、その中から指揮者を選出、曲も決めて合同演奏して頂く趣向を検討していましたが、それも叶わぬ夢となりました。

埼玉は高校の男声合唱がとても盛んです。独自に自粛判断されたところもあるかと思いますが、県立浦和高校、県立川



越高校、川越東高校の3校がエントリーしてくれました。東京からは法政大学アリオンコールのOBからなる男声合唱団オールアリオン、千葉から北総エコーの参加も予定されていました。

この催しはフェスティバルですので、皆が集い・歌い合い・盛り上がり過ぎてこそなのでリモート参加は考えられない、というのが主催者の結論でした。

コロナ禍でもがく大学合唱団

現在、コロナ禍で多くの合唱団が練習の場や演奏の機会を失い、崩壊の危機に瀕しているといっても差し支えない状態に置かれています。それでもコロナ禍が収束すればなんとか立て直そうと一縷の望みを抱いています。しかしながら、高校や大学などの学校関係の場合はそう簡単な問題ではありません。

合唱指揮者・山脇卓也氏が『ハーモニーNo.197(夏号)』に、次のように大学の厳しい現状を述べています。

☑ 課外活動を禁止されて…、運営スキル低下

大学はコロナ禍で授業がオンライン化し、合せて課外活動が止まってしまいました。練習はおろか演奏会もできない状態が続いています。昨年の新入生は一度も学校へ行かないまま1年間を過ごしてしまったようです。

山脇氏の合唱団でも最後の1年間は何もできずに卒業していったメンバーがいるといいます。大学では3年生が幹部として団の運営することが多いにも関わらず、来年幹部になるはずの学生はコロナ禍元年に入学し、ほとんど活動できず、経験も積めない状況に置かれています。4年間という限られた期間の中で活動しなければなりません、そのサイクルが壊れてしまった現在、元に戻すのに果たしてどれだけの時間と労力が必要かと思うと暗澹たる気持ちになります。

大学合唱団は、学生が自ら運営しているところが、中学高校とは大きく異なっており、メンバーが自主的に再建に努めなければ存続できません。大学によってはOB会のバックアップやサポートが期待できますが、それには限界もあり、まずは現役メンバーが揃っていないと有効に機能しません。

☑ もう限界…、学生指揮者の苦しみ

コロナ禍以前から大学合唱団、とくに男声合唱団の衰退が顕著になっていました。そこへ輪をかけてコロナ禍という災厄が襲い掛かってきました。

山脇氏の質問箱に学生指揮者から「もう限界です…」という悲痛な投稿があったといいます。山脇氏は、課外活動の自粛は受け入れられないと「大学に対して声をあげること」、それには各種ガイドラインに基づく、科学的取り組みを提示して大学側と粘り強く交渉することを強く推奨しています。

大学合唱団の衰退は、そのまま日本の合唱の将来にもかかわる見過ごすことができない問題です。今後の活動を見守り、エールを送りましょう。